発行所（郵便番号100）
東京都千代田区丸の内２－４－１
丸ノ内ビルデング７８１号室
社団法人スウェーデン社会研究所
Tel（212）4007・1447
編集責任者　中嶋　博
印刷所　関東図書株式会社
定価200円（年間購読料参千円）
1987年６月25日発行
第19巻　第６号
（毎月１回25日発行）
昭和44年12月23日第３種郵便物認可

スウェーデン社会研究月報

Bulletin Vol. 19 No. 6

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)
Marunouchi-Bldg., No.781. Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan.

スウェーデンの知謀（Swedish Resources）

── 平和構築の政治戦略 ──

理事　明治大学教授　　岡　野　加穂留
Director, Prof. Kaoru Okano

比較政治（Comparative Government and Politics）の視点から、先進民主政治諸国の政治制度を研究してみて、矢張り北欧諸国、特にスウェーデンは政治システムの面で際だっている。

当研究所創立二〇周年を記念して出版した『スウェーデンハンドブック』（スウェーデン社会研究所編・早稲田大学出版部刊）にて、十七項目の観点による多角的考察が行われている。確かに、スウェーデンは、他国のモデルにはなるが、スウェーデンのモデルになる国は存在しない。その意味から言っても、常に科学、特に社会科学の実験国であることは間違いはない。私が一院制を具体的に提唱する契機になったのは、一九七〇年にストックホルム滞在中、デンマークについで一院制スタートの為の総選挙の実態を経験して以来である。国会議員の数を減らし、名簿式比例代表制ラグ方式の実施。これを行えば一票の価値の不平等は生じない。党財政自主権確立の一助としての「政党宝くじ」の実施。各種のオンブツマン制度の創設など。日本の政治の実態と比べれば、政治の代表行為が徹底するような仕組みになっている。これとは正反対なのが、わが国の政界。時代に逆行するようなことばかりしている。

故パルメ首相とよく話したのは、核兵器廃絶・軍縮を中心に、われわれに今、何ができるのかという人々に納得されるような、具体化の裏付けを持った現実政策の模索と検討であった。民主的でない諸国における人権問題と政治的自由の実現に関する彼の情熱は大変なものであった。政治亡命者を受け入れ、実によく彼らの面倒を見ていた。一九八一年秋。バルト三国のエストニア共和国社会党ヨハネス・ミケルソン委員長（当時八十五才）にパルメの紹介であったが、その時、亡命四十四年目といっていた。中南米に対する関心も深かった。若い亡命者にも相当に会った。

ストックホルム平和問題研究所（SIPRI）の存在も世界平和へのオンブツマン的役割として刮（かつ）目に値する。超大国などの軍拡競争の化けの皮をはぐSIPRIの平和的・政治的役割は大きい。

日本で権威ある平和研究所が創れないものか。日本議会史で尾崎行雄についで二人目、首相経験者として初の国会議員在職五十年の表彰を受けた三木武夫軍縮議員連盟会長の栄誉をたたえ、日本〝SIPRI〟を、アジア・極東地域に創設したいものである。

目　次

スウェーデンの知謀－平和構築の政治戦略
……岡野加穂留…1
ミュルダール先生の御逝去を悼む
……西村光夫…2
日溜りの中の老人達－医療側から見た
スウェーデンの老人医療…福本一朗…2
（Göteborg 通信）名前について…三瓶恵子…4
〈ＳＩＰニュース〉……5
大使館よりのお知らせ（資料提供）……6

ミュルダール先生の御逝去を悼む

Lament for Dr. Gunnar Myrdal

理事長　西村光夫
Chairman of the Board of Directors, Prof. Teruo Nishimura

去る五月十八日の夕刊で、グンナー・ミュルダール先生の御逝去を知った。先生には二十年にわたり、公私ともに厚い恩寵を受けた人間として何とも哀惜の念に堪へない。先生は数へ年九〇歳になられるが、一昨年夏ストックホルムでお会いしたときはまだ矍鑠としておられた。六年前来日されたときは脚を弱くされ車椅子が必要であったのに、そのときはステッキも用いずに文化センターの入口の階段を登ってゆかれる姿をみて、元気になられたなと驚いた位であった。その後間もなく、愛妻アルバ夫人を亡くされた。先生の愛妻振りは世に聞へたものであったから、これは先生の死を早める大きな原因であったであろう。

先生の学問上、政治上の高くて豊富な業績についてはとてもここに短かくは述べきれない。これからわが国でも多くの人々によって語り継がれることであろう。ここに一つだけ私事にわたることを申し述べておきたい。先生は日本にも多大な関心をもっておられ、多々来日されているが、十年ほど前東京にスウェーデンセンターが出来たことに関連し、ストックホルムにもジャパンセンターといったものが出来てもよいではないかと私が希望していたことを知られ、私にその実現に努力しろ、自分も出来るだけの応援をするからと、強い声援を送られた。爾来それは私の大きな宿題となっていたのだが、微力にして未だに実現に至っていない。宿題を果さぬうちに先生に逝かれてしまったことはまことに申訳ない限りである。

先生が大の愛妻家であったことは有名である。先生はどんなときもアルバ夫人の話となると忽ち御機嫌がよくなった。いまや先生の霊が天国で再びアルバ夫人の霊と一体となり安らかにわれわれを見守って下さることを祈るばかりである。

日溜まりの中の老人達

── 医療側から見たスウェーデンの老人医療 ──

イエテボリ在住　留学生　福本一朗

人口約45万人のイェテボリ市はスウェーデン第2の都市で、カテガット海峡に面した静かな港町である。2つの大学とボルボ（自動車）、SKF（鉄鋼、ボールベアリング）、ハッセルブラッド（カメラ）など日本でもよくしられた産業があり、ひと昔前までは造船業も盛んで3社の浮きドッグが市を横切るイェータ川に浮かんでいた。厳しい冬が終わり、復活祭の休みともなると、ようやく北欧の遅い春となる。老人達は町や並木道や公園で日向ぼっこをするのが一番の楽しみとなる。彼等の顔には老いの憂愁は見られない。十分な年金と行き届いた社会保障制度のおかげで、老人達の最大の関心事は休みになるとやって来る子供達や孫達を迎える準備のことである。普段の日は、成人教育機関での編み物や陶器の制作、語学の再学習、それに気の合った仲間達といろいろなサークルを作って交際したりで結構忙しい。そのせいか町中はいつも着飾った老人達で溢れている。

私共の目から見れば幸福なこの老人達の健康を支えているのは、彼等が永年の努力で作り上げてきた老人医療体制である。イェテボリ市の中心部に19世紀末に建てられた、ベット数600のバーサ病院は老人専門病院で、市内の5つの老人医療管区を統括している。ここには50歳から百歳以上の比較的高密度の医療行為を必要とする老人達が、平均3カ月入院している。患者一人当たりの一日の平均コストは650から800クローネ（現在1クローネ＝約23円）。これは一般外科病棟の2500クローネ、内科病棟の1400クローネに比してかなり低いが、糖尿病やぜん息などの慢性病が多いためと思われる。老人医療の形態はこの老人病院のほかに次の4つのタイプがある。

①老人医療施設（sjukhem）

比較的軽度の医療が必要な老人達が平均３年収容されている。看護婦を中心に運営されており、医師は毎週１回巡回する。イェテボリ市は10個所の施設があり、患者1.3人にあたり１人の職員がついて老人達の世話をしている。患者一人当たりの一日平均コストは700クローネ。すべての患者はバーサ病院を経て入院する。

②通院治療施設（DSV）

主にリハビリテーション中心の患者が多く、期間は３カ月以内と定められている。その間毎週１，２回准看護婦がタクシーで家からの送り迎えに付き添う。大体前述の老人医療施設に併設されており、バーサ病院からの巡回医のほかに、看護婦、理学療法士、作業療法士、准看護婦が全日勤務している。患者一人当たりのコストは毎回290クローネかかるが、患者自身は昼食代も含めて毎回50クローネを支払うだけで良い。それも16回目からは無料となる一年有効の「15回カード」があるので、年金生活者の経済的な負担にはならない。老人達にとっては社交の場所ともなっていて、作業療法室は男女の老人達の明るい話声で満ちている。プールや集会場も併設されており、利用は自由である。

③在宅医療（HSV）

患者が自分の家で治療を受ける事を望み、病状がそれを許せば老人医療施設と同様の医療が受けられる。しかし希望者が多く、長い待ち行列が出来ている。バーサ病院のＨＳＶセクションが一切を管理し、約250人分の「住宅ベッド」がある。毎日最低１回の看護婦巡回のほか、症状に応じて准看護婦や看護助手が何度も巡回して日々の生活に必要なあらゆる事を介助する。筋萎縮性側索硬化症（ＭＳ）の患者などは、まさに朝ベッドから車椅子に移動するときから一日中、洗面・トイレ・食事・買い物・散歩・手芸・入浴にいたるまで介助して貰える。緊急の場合には、腕につけた非常警報装置を押せばすぐさま看護人が急行する。一人住まいの老人には、毎夜何回かのパトロールまである。また、患者が町に出掛けたいときには、最低１名の若い介助者が付き添う。交通機関は一般的に体の不自由な人々も支障なく利用出来るようになっているが、特に車椅子用のリフトがついたマイクロバスがあり電話一本でタクシー並みに利用できる。市の組織的には、医療に関することは医療局の、それ以外の生活に関することは社会福祉局の管轄となっているが、バーサのＨＳＶセクションでは毎日連絡を取りあい、介助者どうしが鉢合わせしない様に調整している。コスト的にはもっとも高価で、患者一人当たり毎日1200クローネかかると言われている。このように入院する場合に比べて約２倍の費用がかかる在宅医療を何故イェテボリ市は推進するのか、担当者に尋ねてみたところ、人道的な理由が主だということだった。家を離れたくない患者を治療のためだといって一律に、無理やりに病院に収容するのは余りに乱暴だというのである。それは、特に癌末期の患者や、症状の改善のみ込めないＭＳの患者などの場合、特に考えねばならないという。また外国の一部の政治家は、「スウェーデンは経済的理由のため在宅医療に逆戻りしている」と宣伝しているようだが、それは間違いであり、決してコストの削減にはならないと強調された。スウェーデン政府は老人医療施設を現在以上増やすことはせず、この高価であっても国民の望む在宅医療方式をますます進めていく方針という。

④サービスハウス（Servicehus）

特に医療を必要としない老人で身の回りのことを一応は自分でできる老人達に、安価で快適な住居と栄養のバランスのとれた食事を与える施設であり、狭義の老人医療機関ではない。老人達は個室、または夫婦部屋を食費こみで毎月約３万円ほどを年金の中から支払う。特に収入の少ない人にも最低額の小遣だけは手元に残る様にしているという。生活は一切自由。ベッド・メーキングと掃除以外には職員は個室に立ち入らない。老人達は広い食堂で皆と一緒に食事してもよいし、自分で作り個室で食べてもよい。看護婦の資格をもった女性が管理人として常勤しているほか、料理人、掃除婦などもいる。雰囲気としては養老院よりホテルに近い。管理人の話では、ここはあくまでも一部屋一部屋が「個人の家」であり、入居者は「ゲスト」と見なされているという事であった。老人達の健康は、定期的にバーサ病院で診察を受けるほか、緊急時には24時間待機しているバーサの当直医が駆け付けることになっているという。

スウェーデンの老人医療システムを見ていて強く

感じることは、種々の組織の連係が非常に良くとれていることと、利用する人々からの意見のフィードバックがよく作動していることである。また、患者は自分が納税者であり、医療を受ける権利主体であることを自覚しており、自分の意見や好みをはっきりという。それは国民性の違いなのか、永年の社会民主党政権の教育成果によるものだろうか、考えさせられることは多い。人は誰でも老いて行く。そして誰もが、「人の手を借りず」に老後を過ごせるわけではない。自らの老後は自らで作って行くしかない。スウェーデンの老人福祉も、決して人から与えられたものではない、彼等がほぼ半世紀をかけて自ら築いていったものなのだ。

日本人の平均寿命は、昨年スウェーデンを抜き世界一になったというが、その「Life of quality」はどうであろうか？　それは国の豊かさだけに因るものなのだろうか？　確かにスウェーデンは40万平方キロに850万人の人口しかいないうえ、耕地も地下資源も日本よりは豊かである。しかし彼等はＧＮＰ世界第３位の日本人のほうが自分達より豊かだという。おりしもロンドンでのオークションでスウェーデンの国民的画家カール・ラーションの大作、「冬至祭（Midvinterblot）」が、「名画よ祖国に届まれ！」という人々の願いも空しく80万ポンド（約１億８千４百万円）で日本人に買われていった。スウェーデンテレビの記者のインタビューにバイヤーはこう言った。「買い手の名前は教えられないが、美術館ではない。全くの個人だ。彼にとっては画家の名前は問題ではない。絵のqualityだけが問題なのだ。」我々も、我々自身の人生のquality、老後の生活のqualityを問題にすべき時ではないだろうか。

〈Göteborg 通信〉

名　前　に　つ　い　て

Names

会員　三瓶恵子
Ms. Keiko Kjellsson－Sampei

スウェーデンのカレンダーや手帳をごらんになったことがおありでしょうか？元日やクリスマス等の１．２の例外を除いて１日１日に人の名前がついているのです。たとえば４月の最初の１週間は次のようになっています。１日ハラルドHarald、２日ギュドムンドGudmund、３日フェルディナンドFerdinand、４日アンブロシウスAmbrosius、５日ナンナNanna、６日ヴィルヘルムVilhelm、７日インゲムンドIngemund。これらの名前はほとんどが昔の聖者（男女両方）の名で、キリスト教関係、北欧神話に関するもの、ドイツやギリシア等外国系のもの等いろいろな種類があるようです。中には現在ではほとんどきいたこともない名もありますが、スウェーデン人の約半数弱はこのカレンダーにある名前をもっているのだそうです。誕生日ほどではないですが、〝名前の日〟namnsdag といって自分の名前の日にケーキを食べてお祝いする風習も残っています。

〝名前カレンダー〟がいつごろできたのかは不勉強でよく知りませんが、現在使われているものは1900年代の初めに改正されたもののようです。それでもスウェーデン人のうち半数強が〝名前の日〟をもっていないのは不公平だというので、最近の名前カレンダーでは従来のものに１日に付２、３の似た名前をつけ加えていますが、それらの新しい名はまだ一般的にはよく知られていないようです。ちなみにフィンランドでは１日に複数の名前がついていて、ほとんどのフィンランド人が〝名前の日〟をもっているのだそうです。

スウェーデン人の名前で一番多いのはマリアMariaで388,584人がその名をもっているそうです。たいていのスウェーデン人は洗礼名も加えて２つ３つ名前をもっていたり、ハイフンでつなぐいわゆるダブルネイム（たとえばアンナ＝カーリンAnna－Karin, イング＝マリーIng－Mari）dubbel namnをもっていたりするのでいろいろなヴァリエーションがあるのですが、マリアという名前は単独で圧倒的に多いのだそうです。

名前にもやはり流行があって、1930年代頃にはやったというポントゥスPontusという名がまた最近幼児の名として復活したり、1920～40年代にはやったマリィMary等のアメリカ式の名前はほ

とんどみられなくなったりしています。今後流行するだろうとみなされている名は現在の王室関係のもので、たとえばシルビアという名のスウェーデン人は現在全国で151人しかいませんが、シルビア女王の人気にあやかって近い将来急激にふえるのではないかと予想されています。

日常生活ではスウェーデン人は名前にあまり固執しないというか、〝短縮形〟や〝呼び名〟で公的書類もことたりたりしています。たとえばエリザベス Elisabeth という名がリスベス Lisbeth になったりリサ Lisa になったりすることはかなり一般的なようですし、国王や王女が学校の仲間に全然別の〝呼び名〟で呼ばれているのはよく知られています。

ただそれとは裏腹に、日本の戸籍担当役所にあたる教会区事務局 pastors expeditionen では〝普通でない〟名前を拒否したりすることがあります。教会区事務局はキリスト教信者かどうかには関係なくすべての地域住民の登録を担当する機関ですが、拒否問題の中心となるのはやはりキリスト教関係のことが多いようです。最近話題になっているのは、自分の名前に〝神〟Gud という名前をつけ加えることを望んでいるマグヌス Magnus という男性が、それを拒否されたことです。キリスト教が北欧に浸透する以前の北欧独自の名前の中には、上に紹介した4月2日のギュドムンド Gudmund や11月24日のグドゥルン Gudrun 等〝神〟Gud ということばが入った名前が多くあるのですが、やはりキリスト教では神はあまりたくさんいてはいけないようです。

姓の方になりますと、昔一般的だった〝～の息子〟～son、〝～の娘〟～dotter という姓のつけ方はもう今ではないそうです。たとえばペッテルション Pettersson という姓は〝ペッテルの息子〟という意味で、お父さんがペッテル Petter という名であることを示しています。いいかえればお父さんの姓はペッテルションではなく別のものなのです。こういう姓のつけ方は1950年代ころまではおこなわれていたようです。

姓は名前よりもさらにヴァリエーションがありませんし（同姓の多いこと！）、最近の法律改正によって結婚しても姓を変えないカップルが多くなったり、職場や学校でも上司、部下、教師、生徒が互いに名前で呼びあうスウェーデンでは、姓よりも名前の方が重んじられているような気がします。

中国系タイ人と結婚した友人がおそろしく長い姓に変わったので理由をきいたところ、夫の両親が中国からタイに帰化した時にタイ人にはない姓を新しくつくらねばならなかったからだとか、アラブ人と結婚した友人は夫の名前（姓ではなく）が自動的に姓になったとか、姓や名前にまつわる習慣は、お国柄が出るというか、もっと深くその国の文化的、社会的、歴史的伝統を示すものではないかと思わされます。

（参考：G－P紙1987年1月4日付）

〈SIP ニュース〉

スウェーデンの首相、工業の大代表団を率いて訪中

商工業のわく内での新しい瑞中の合弁事業

4月3日～10日にかけて、スウェーデンのイングヴァル・カールソン（Ingvar Carlsson）首相が中国を訪問したが、それを契機として様々なイベント ── 商工業のわく組内での瑞中の合弁事業の開始、新契約の締結、北京のための工場及び可動性のラジオリンクシステムの開設等 ── が催された。カールソン首相は、また、鄧小平を含む中国首脳陣と会談を行なった他、首都郊外の商店街を訪れたということである。

首相の忙しい中国訪問の旅は、まず、電熱及び抵抗線製造のためのシャオガン ── カンタール（Shaugahn－Kanthal）工場の落成式とスウェーデン生活協同組合連盟及び国有のプロコルディア（Procordia）工業グループのための出張所開設でスタートした。また瑞中両国のスペースコーポレーション（Space Corparation）が、宇宙の研究協力に関する契約調印を行なった。カールソン首相は、この他、スウェーデンのテトラパックグループ（Tetra Pak group）によって北京に設立された紙パック工場のオープニングにも立会った。

首相の中国訪問中に、北京と上海でシンポジウムが開かれたが、その主要テーマの一つはエネルギー

と環境の問題であった。また、スウェーデンの製薬会社三社 ── アストラ（Astra）、カビビトルム（Kabi Vitrum）、アポテークスブラーゲット（Apoteksbolaget）── が、ウーシーに合併の製薬会社を開設した。

今回、カールソン首相は過去最大規模の工業代表団と共に中国入りし。北京ツーリストカーカンパニー（the Beijing Tnurist Car Company）のためにエーリクソン（Ericsson）が設置する可動式ラジオシステムの開設に立会った。完成のあかつきには、同システムは北京の1,200台のバス、リムジン、乗用車の可動装置から構成されることとなる。

スウェーデンに留学生をひきつけるために案出された国際教育

大学庁（UHA）のコンサルタントを勤めるハロルド・ロウソン教授（Professor Harold Lawson）の発表によると、「スウェーデン国際大学プログラム」"Swedish International University Program"の一環として、1988/89学年度より、スウェーデンに新しく12程の修士課程が設置される。これらの課程は、教育期間1.5から2年、使用される言語は英語である。入学を希望する者は、学士号もしくはそれと同等の学力を有する必要がある。国際修士課程は、同じ学校の既存のスウェーデン語による課程と相互に連関させられることとなろう。それらは、自己金融制、留学生を送る国々によって学費が支払われるように意図されている。

スウェーデンの大学の中には、独自に、同様の計画を開始しているところもあるが、合同の組織の方が、海外市場の開拓に役立つ。そこでUHAは、目下提案されたプログラムへの参加をすすめるべくスウェーデンに関係するあらゆるところに回状を送付している。将来、スウェーデンは50の専門課程に2,000人までの留学生を受け入れる見込みである。国際的高等教育施設を改善すれば、スウェーデンは、教育のために海外にでる必要がある発展途上国の学生を含むより多くの留学生をひきつけることができるようになるだろう。

大使館よりのお知らせ

下記の資料中ご希望のものをスウェーデン大使館（港区六本木1－10－3）広報部へ書面でお申込下されば無料でお送りいたします。但し、品切れの際は、貸出（1週間）となりますのでご了承下さい。

記

1. New Swedish Technology Vol. 5 No. 3 23 pages English
2. New Swedish Technology Vol. 5 No. 6 23 pages English
3. Act on Chemical Products 66 pages English
4. National Chemicals Inspectorate, the new Sweden agency for chemicals control folder English
5. News & Views, After Chernobyl? 12 pages English
6. Unemployment benefits, Swedish Labour Market Policy 26 pages English
7. Nordic co-operation, 67 pages English
8. Nordic co-operation, 22 pages English
9. FOA in a nutshell, 17 pages English
10. Every male Swedish citizen comes into contact with the Enbrolment Board of the Armed Forces, 16 pages English
11. The Swedish Parliamentary ombudsmen Report for the period July 1, 1985 to June 30, 1986, p.396 －p.406 English
12. The Cost and Financing of the Social Services in Sweden in 1984, 12 pages English
13. Facts about Swedish Agricalture, 19 pages English
14. The Evolution of Social Welfare Policy in Sweden, second edition, 79 pages English
15. The monarchy in Sweden, Second Edition, 24 pages English
16. Swedish Films 87, Flashback, 1986, －Preview, 1987, 60 pages English
17. Form Swedish Design Annual, 112 pages English
18. Housing, care and service for elderly and old people-the situation in Sweden, 40 pages English
19. Stockholm's Day-Care Centeres 1974－1984, 64 pages English
20. Music in Sweden, Folkmusic, 16 pages English

第三種郵便物認可　昭和44年12月23日　スウェーデン社会研究月報　昭和62年6月25日発行　第19巻第6号
毎月1回25日発行　編集責任者　中中鴻博　発行所　社会法人スウェーデン社会研究所　定価二〇〇円